

新はごろも

長唄

全詞章

作詞者・作曲者・初演年不詳

別題「相生新はごろも」(あいおいしんはごろも)

原典の題名「相生新はごろも」

も」

朝風あさかぜの松まつは常磐とぎはの声こゑぞかし、波なみは音おとなき朝風あさなぎに、釣人つりび多おほきをよねかなと、時ときしも春はるの景色けしきや

三保みほの三保みほの松原まつばらに、白龍はくりやうもいざや通かよはん、いざや通かよはん

天あまの原はらふりさけ見みれば霞かすみたつ、空そらにもいつしか行ゆく雲くもの、羨うらやましげにうち眺ながめ

迦陵頻伽かれうびんがのなれなれし声こゑ、いまひらに雁かりがねの、帰かへりゆく天路あまぢを聞きけば懷なつかしや

ちどりかもめ

千鳥ちどり鷗かもめの沖おきつ波なみ、行ゆくか返かへるか変かはる風かぜの、天人あまの羽風はかぜのひらひらと、雨あめに潤うるほふ新枕にひまぐら

ふた まぐら あひおひ まつ よ

二つ枕ふた まぐらは相生あひおひの松まつ、夜よはつらい長枕ながまぐら

う 浮うかぬ調子てうしの三味線枕さみせんまぐら、いとしかわいの文枕ふみまぐら

変かはらしやんすな木枕きまくらの、よそへは靡なびかぬ下紐したひもしやんと、括くくり枕まくらや袖枕そでまくら

こんな縁ゑにしがからにもあろかいな、めへ羨うらやむふたり寝ぬる夜よの肘枕ひぢまぐら

あづまあそ まひ きやく

東遊あづまあそびの舞まひの曲きやく、その名なも月つきの色人いろびとは三五夜中さんごやちうの空そらにまた

さる程ほどに時移ときうつつて、天あまの羽衣浦風はごろもうらかぜに、たなびきなびく三保みほの松原まつばら

うきしま くも あしたかやま ふじ たかね あまつ みそら かすみ まぎ

浮島うきしまが雲くもの足高山あしたかやまや、富士ふじの高嶺たかねかすかになつて、天津御空あまつみそらの霞かすみに紛まぎれて失うせにけり